情報通知

研究課題名：急性期入院患者における Functional Independence Measure(FIM)によるリハビリテーションの介入効果および予後予測の検証

研究の実施体制：五十嵐　達也(責任者)、林　翔太、小川　嘉壱(沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法課)、関根　英哉(沼田脳神経外科循環器科病院　作業療法課)

研究の目的：疾患の発症を契機に日常生活活動能力(activity of daily living: ADL)が低下した者は，退院後の能力障害や生命予後が不良であることから，急性期の医療機関において発症早期から身体機能への介入に加え，基本動作能力や ADL 能力を維持，向上するためのリハビリテーションを行うことは重要です．本邦では，入院中に ADL 能力が低下した患者は一般病棟入院基本料 7 対 1 を算定する病床では 3.7%で，10 対 1 を算定する病床では 4.1%であったとされており，急性期から適切に ADL 能力を評価し，リハビリテーションを提供する上での介入方略の意思決定や介入の効果判定に活かすことは重要です．本研究の目的は，急性期の入院患者を対象に，リハビリテーションの提供単位数や ADL 能力の評価指標である Functional Independence Measure (FIM)を用いて，急性期リハビリテーションの効果検証や予後予測のための知見を得ることです。

研究の対象：2018 年 6 月から 2020 年 10 月の間に沼田脳神経外科循環器科病院で入院リハビリテーションを受けた方が対象となります。診療録データベースの情報を見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

収集する情報：年齢，リハビリテーションの算定区分，転帰，在院日数，リハビリテーションの開始日数，1 日当たりのリハビリーテーションの平均提供単位数(PT，OT，ST の合計)，入院時と退院時の ADL 能力となります。

情報の保管および破棄、情報公開の方法：データを解析する段階では，個人を特定できる情報は含まれません。検査結果は Excel への出力および ID 番号を用いて対応表にて管理します。ファイルはパスワードでロックし，HDD は施錠可能な室内にて保管します。ファイルの移動に関しては，パスワードでロック可能な USB を用いて行います。研究終了後(令和 5 年度末)のデータの取り扱いとして、デジタルデータはいかなるソフトウェアでも復元できないよう PC 上で完全に削除します。
得られた結果については論文あるいは学会で発表することがあります。

見込まれる医学上の貢献：急性期の入院患者を対象に，リハビリテーションの介入の効果や予後予測を検証することができると考えております。

研究に関する問い合わせ先：
群馬県沼田市栄町8番地、0278-22-5052(内線5401)

沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門 理学療法課
担当者:五十嵐達也(責任者)